

大東 BOOKS

創刊号 2007年6月29日

『大東 BOOKS』創刊のご挨拶……………	1
図書館からのお知らせ……………	2
図書あれこれ（英語学）……………	4

『大東 BOOKS』創刊のご挨拶

柴田善雅（図書館長）

大東文化大学板橋キャンパスの図書館は2003年9月に新築した中央棟に移転して既に3年9ヶ月を経て、利用者に一段と馴染んでいただいております。また東松山キャンパスの図書館は建築後21年を経て、東松山キャンパス整備の動きの中で施設の補強を図る必要があります。そのような状況の中で、2007年4月1日より大東文化大学図書館長に就任しました。

大東文化大学は板橋と東松山の両キャンパスに図書館棟を有しており、蔵書は2007年3月末で、人文科学・社会科学を中心に合計127万冊を越え、年間47万名を越える来館者にご利用いただいております。図書館の広報活動として、紙に印刷した伝統的な利用案内の発行や、ウェブ上の解説、学生を主な対象とした図書館の利用の個別説明等を行ってきましたが、図書館からの情報発信としては十分ではありません。図書館の利用を促進するためには、利用者への積極的な情報の発信が不可欠です。現在も多くの伝統ある大学図書館では紙媒体の図書館報を定期的に発行し、内外に情報の発信を行っています。かつては大東文化大学図書館でも館員の創意工夫で『りーぶる』と称した図書館報を発行していましたが、残念ながら力量不足のため1998年4月の第23号を最後に停刊しました。その復刊を望む声も一部にありましたが、復刊できずに今日まで来ています。

大東文化大学図書館の主な利用者は本学学生・教職員ですが、卒業生や学外から本学に支援をお寄せくださる方にもご利用もいただいております。すでにインターネット

を通じて館外からの館蔵本の検索が容易で、学外者の方にとっても利用環境は整備されており、I L L等を通じた他大学等からの相互利用も歓迎しています。さらに東松山の図書館では近隣住民へも利用を開放しており、今後も図書館設備の充実と平行させて利用範囲の拡大を図るつもりであります。そのため図書館からの広報を強化する必要があり、今般、情報発信を紙媒体の広報誌や本学内の掲示物としてではなく、学外からもアクセスできるウェブ広報誌の図書館報『大東 BOOKS』を創刊し、その機能を担わせることにしました。

『大東 BOOKS』は、その編集方針に図書館長が責任を持ち、毎号に図書館の案内記事と図書及び図書館情報を掲載します。図書館では季節により、また機器の導入等により利用者へのサービス状況が変わりますので、それを迅速に紹介します。さらに本学教員に執筆をお願いし、学生・教職員に幅広い情報提供を行います。本学教員に専門分野の図書の紹介をしていただくほか、内外の図書館探訪記事等の執筆を依頼するつもりです。それにより本学の幅広い教員の図書館への求心力を保ちたいと考えております。また図書館員は記事の執筆に責任を持つため、説明能力を磨く必要があり、それも図書館員の訓練となり併せて励みになるはずで、ウェブ広報誌は印刷・郵送コストの負担が発生しませんので、コンテンツを維持できれば年3、4回の刊行は可能かもしれません。三号雑誌で終わるつもりはなく、学内外の読者の皆様からのご支援をいただくことで、息長く続けたいと考えております。また内容について、読者のご意見・ご感想等も拝聴し、参考にさせていただきますので、お寄せいただければ幸いです。次号以降の『大東 BOOKS』へのアクセスをお願いします。

なお創刊号で執筆をお願いしました外国語学部英語学科の三好郁夫教授は、柴田の前任の図書館長であり、ご専門の英語学関係の図書の紹介をしていただきました。この場をお借りして、改めて前館長の任期中のご尽力に感謝します。

図書館からのお知らせ

コピーサービスと繁忙期のグループ学習室の開放

①館内コピーについて（A3,B4,A4,B5 いずれも1枚＝10円）

図書館では、サービスの1つとしてコピーサービスを実施しています。図書館のコピーサービスは「著作権法」の規定に従い、利用できるようにしています。

図書館のコピーサービスの条件の主なものを列挙すると、

- ・コピーする資料が図書館の所蔵する資料であること。

- ・利用者1人が1部のみコピーをすること。
- ・最新号および全頁複写はできないこと。
- ・図書館が利用者に対して申し込み用紙等を書かせて管理すること。

などです。コピーをする際は、上記のことを注意して利用してください。

なお、板橋キャンパス内で販売されているコピーカード（磁気カード）は、みな同じデザインのカードですが管理している会社が異なるため共通使用はできません。板橋図書館で販売されたカードは板橋図書館内でお使いください。なお、東松山図書館ではコピーカードを販売しておりません。

②グループ学習室の開放について

板橋図書館の閲覧席は、551席（含書庫棟3席）。そのうちパソコン用閲覧席116席、東松山図書館の閲覧席は855席、そのうちパソコン用閲覧席55席が設置されています。（インターネット用のみ。OPAC等専用機は除く。）

平成19年度に図書館では、パソコン設置台数を大幅に増やしたため利用者も格段に増加しています。他方、例年試験期間の2週間前からの利用者が急増します。利用者急増期には閲覧席の確保が急務になってきました。そこで、板橋図書館では2階第1・2グループ学習室36席、東松山図書館3・4階グループ学習室24席を一般閲覧席に開放します。期間は7月2日（月）から7月31日（火）までです。

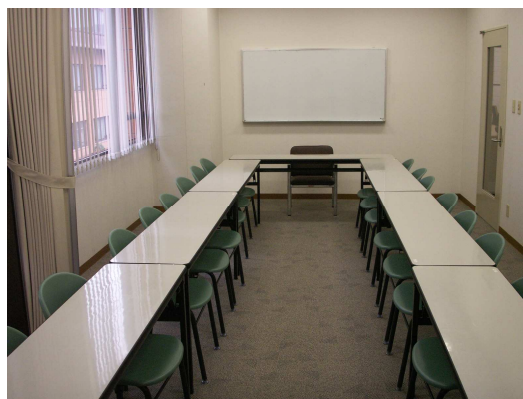
一般閲覧室と同様におおいにご利用ください。

山本彰（図書館事務部図書課）

板橋グループ学習室



東松山グループ学習室



図書あれこれ（英語学）

三好郁夫（外国語学部英語学科教授）

「英語学」と、その周辺部への好奇心(interest)に応えてくれる極上の10冊（1サイトを含む）をここに推薦する。英語に関心のある一般の学生も想定して選択した。この9冊はいずれも本学図書館に収蔵されている。

- ①「英語」の履歴を知るには、岩崎春雄・他訳『英語物語』（文藝春秋社）がお薦め。5世紀中葉のイングランドに誕生した英語が発展・拡散してゆくドラマは読みごたえ十分だ。原著は McCrum, R., W. Cran 他 *The Story of English*. こちらは改訂3版が出ている。
- ②英語文法の発展の歴史を一望するには、家入葉子著『ベーシック英語史』がよい。古英語から現代英語にいたる展開が124ページのなかに圧縮されているが、負担とならない。
- ③現代英文法といえば、やはり江川泰一郎著の『英文法解説 改訂3版』であろう。英文法のことなら何でも解決してくれるので、座右に置くべき有難い宝物である。
- ④辞書の発音記号が面倒だと思うひとは、www.uiowa.edu/~acadtech/phonetics/ へどうぞ。口腔内の舌の動きが目に見えて、しかも基本単語を繰り返し発音してくれる。（発音記号のごく一部が、日本の辞書のそれと異なるが、対応関係にすぐ気がつくので心配ない）
- ⑤もっと詳しく英語の発音を知りたくなれば、川越いつえ著『英語の音声を科学する』が手ごろだ。日本語の発音と対照しているのでわかりやすい。
- ⑥ところで、「英語学」って、どんな「学」？——こんな serious な問いかけには、長谷川瑞穂・脇山玲編著『英語総合研究—英語学への招待—』（改訂版）がお薦めの一品である。「英語学」の守備範囲が俯瞰できる便利な案内書である。参考文献情報も役に立つ。
- ⑦「学」ではなくて、随筆ふうの案内書となると、椋田直子訳『言語を生み出す本能〔上・下〕』が最高である。原著は S. Pinker: *The Language Instinct*. 米国の大学のキャンパスで、この書物を抱えて歩くことがファッションにまでなったという伝説の書物だ。英語のみならず、ことばとヒトとの複雑怪奇な関係を易しく解き明かす語り口は、宇宙を語るホーキンスを思い起こさせる。このような才能は、この分野では彼以外にはいない。
- ⑧ピンカーを読んで、生成文法に触手が動けば、田窪行則、郡司隆男訳『言語と知識—マナグア講義録（言語学編）—』を推す。原著は Noam Chomsky: *Language and Problems of Knowledge—the Managua Lectures* である。例文がスペイン語だが、スペイン語の「ス」の字も知らなくても理解の妨げにはならない。ノートをとりながら、熟読されたい。魂が別の世界に飛翔するであろう。チョムスキーは現代のニュートンである。
- ⑨デジタル大好き人間には、（電子）コーパス言語学がある。齋藤俊雄・他編『英語コーパス言語学—基礎と実践— 改訂新版』は、文字通り基礎から実践まで懇切に案内してくれる。本学図書館のオンライン Oxford English Dictionary で、取りあえず遊んでみよう。

⑩最後になってしまった。意味論では、池上嘉彦、西村義樹、他著『英語の意味』を推すこととする。電車のなかで読み始めると、乗り越す危険があるので、要注意。

<付録> 同業者の方へ：お口直しには the premier scholarly journal featuring research in the neglected field of satirical linguistics. www.specgram.com へどうぞ。

大東文化大学図書館報『大東 BOOKS』	
創刊号	2007年6月29日刊行
編集発行人	柴田善雅
連絡先	大東文化大学図書館事務部図書課
住所	〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1
電話	(03) 5399-7331
Email	lib-all@ic.daito.ac.jp